



# 七里小だより

11月号

さいたま市立七里小学校  
令和4年11月1日

## 「心を潤す4つの言葉」週間を前に

さいたま市立七里小学校  
校長 保坂 泰司

最近、寒い日が続くようになりました。季節は秋ですが、着実に冬に向かっていて感じさせられます。皆様におかれましては、体調管理に注意しながら「〇〇の秋」を満喫していただきたいと存じます。

さて、10月19日(水)～21日(金)の日程で、5年生は「自然の教室(南郷)」へ行ってきました。無事に予定されていたすべての活動を終わることができました。南郷はさいたま市とは違い、自然がとても豊かな場所でした。夜は街灯も無く真っ暗になりますが、その分、たくさんのきれいな星が見ることができ、感動させられました。自然の教室は、そのような場所で、そして子どもたちにとっては親元から離れて行われる宿泊行事です。出発式での子どもたちは、これからの活動に対して楽しみと不安が入り混じっている様子でした。そんな子どもたちに私からは、仲間同士互いの足りないところを声を掛け合って補いながら楽しい思い出に残る自然の教室になるようにしましょうと伝えました。特に、2日目のトレッキングの時は、冬場はスキー場のゲレンデとなる急な斜面を歩いたため、多くの子どもたちから「疲れた～」「もう、ダメだ～」等の声が聞かれました。しかし、仲間同士互いに「がんばれ～」「あともう少し」等の声を掛け合ったお陰で、全員でゴール地点に到着することができました。子どもたち一人ひとりの中に、達成感と充実感が満ち溢れ、5年生全体がひとつお兄さん、お姉さんになった瞬間でもありました。

話しは変わって、「落とし物」について気になることがあります。校内(廊下や校庭等)に落とし物がある時は(鉛筆や消しゴム、上着等)、すぐに各クラスに回して持ち主に戻るようにしています。一方、各教室内に落とし物やゴミが落ちていたり、子どもたちにそれらに気付かせるように声掛けをするのですが、最近よく「私のじゃない」や「私が出したゴミじゃない」等の答えが返ってきます。教室内の落とし物に関しては、近くの友だち同士、「落ちてるよ」や「これ誰のかわかってる?」とさえ声掛けをすれば落とし物は持ち主の元に帰るはずなのですが、「私のじゃない」「私が出したゴミじゃない」から声掛けすらないことに、私は悲しみを感ぜずにはいられません。自分がいて、仲間がいて、みんなのクラスがあって、みんなの七里小があるはずで、七里っ子は互いに他人同士ではありません。学級内で「落とし物」があったら、気づいた人が声を掛け、持ち主へ帰すことは当たり前でなければなりません。互いの声掛けが積み重なれば、学級の雰囲気もよくなると考えます。つまり、5年生の自然の教室同様、「声を掛ける」ことからすべてはよくなっていくものと考えます。

そこで、11月21日(月)から1週間、子ども、地域・保護者、学校で積極的に気持ちのよいあいさつや返事、心をこめた素直な言葉を交わすことによって、一人ひとりの心が通う学校や地域づくりを目指すことを目的として「心を潤す4つの言葉」週間が行われます。心を潤す4つの言葉とは、①おはようございます ②ありがとうございました ③はい ④ごめんなさいです。自然にこれらの言葉が一人ひとりの子どもから発せられるような七里小、七里地区、さいたま市になってほしいと願います。ご家庭でもこれらの4つの言葉を大切にしてください。よろしく願いいたします。

